

DAILY INFORMATION; AGRICULTURE RESEARCH

日刊

アグリサーチ

発行所

農業情報調査会

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-21

TEL 03 (3233) 3583

FAX 03 (3233) 3666

E-mail: research@agripres.co.jp

(昭和41年4月13日 第3種郵便物認可)

購読料1ヵ月 5,250円(送料・税込)

日刊(土曜・日曜・祝祭日休刊)

2012年2月7日(火)発行 第11673号

《主な内容》

- ◎牛用飼料の放射性セシウム許容値を改訂
300Bq→100Bq、生産者に切替指導…… 3
- ◎「農林水産省生物多様性戦略」を改定…… 4
- ◎植物工場野菜の安全性・付加価値で初の第三者評価制度…… 4
- ◎書道・交通安全ポスターコンクール表彰式開く=JA共済…… 5
- ◎JAバンクと日本公庫が大雪の「相談窓口」を設置…… 6
- ◎沖縄で琉球芸能と地産地消の催しに全国のJAから900名参加…… 6
- 人事** 北興化学工業…… 7
- 企業情報** レンゴー…… 7
- イベント** 農業関係学会春の大会日程、等…… 7
- 行事日程** 今週の農業界の動き…… 9
- ホットポイント** 500と100の間…… 2
- 副報** 飯田邦彦氏(元片倉チカリ代表取締役社長)
福島幸雄氏(福島喜郎農協共済総研専務理事の冥父)…… 9



J A共済連が「全国小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール」表彰式開き、大賞受賞者28名を表彰=3日(東京・J A共済ビルで) <関連記事5ページ>

◆「農林水産省生物多様性戦略」を改定◆ 農水省は三日、生物多様性をより重視した持続可能な農林水産業を推進するため平成一九年七月に策定した「農林水産省生物多様性戦略」を改定したと発表した。

二二年一〇月に名古屋で行われたCOP10において生物多様性の保全に関する今後の世界目標である「戦略計画2011-2020(愛知目標)」等が決定するなどの情勢の変化をふまえて昨年一二月に開催した「農林水産省生物多様性戦略検討会」で決定した。改定により「生物多様性をより重視した持続可能な農林水産業や、それを支える農山漁村の活性化のさらなる推進」「愛知目標や農業の生物多様性などCOP10の決議を踏まえた施策の推進」「生物多様性における農林水産業の役割の経済的な評価のための検討に着手」「甚大な被害を受けた地域で、持続可能な農林水産業を復興させることで生物多様性の保全に寄与する」としている。



◆植物工場野菜の安全性・付加価値で初の第三者評価制度◆ 土壌の

調査・浄化結果に関する第三者評価などを行って、NPO法人イー・ピーイング(井上健雄理事長、大阪市)はこのほど、植物工場で栽培された野菜の安全性や付加価値、再現性を評価する「生産物及び生産システムの第三者評価委員会(TPAC-PPS)」を立ち上げ、認証制度を開始した。イー・ピーイングによると、植物工場野菜に関する第三者評価制度は国内で初めて。

植物工場野菜の第三者評価は、人工光型植物工場で生産された野菜を対象に、①一般生菌、大腸菌、亜硝酸、重金属などの検査による安全・安心の評価、②糖類、ビタミン、ミネラル、抗酸化力、硝酸イオンなどの検査による機能性や栄養面の付加価値を評価し、認証する。また野菜を生産する植物工場についても、工場運営マニュアルや実地検査、ISO22000準拠のTPAC-PPS審査により、いつでも同じ安全・安心な野菜を生産可能であるか、生産システムの再現性を評価する。評価は、野口伸北海道大学大学院教授が委員長を務める六名の評価委員会が行う。合格すると評価項目によって三つの認証レベル(ゴールド、シルバー、ブロンズ)のTPAC認証書が発行される。ゴールド認証を受

けた野菜は、安全・安心が保証され、付加価値が高いものとして、商品ごとにTPACマーク(前頁図)を添付することができる。

イー・ピーイングは「植物工場は、天候などのリスクがある第一次産業としての農業と併用稼働することで、農業の保険になり得るが、ローコスト運営や付加価値化へ進化するために、消費者の不安の声を払拭し、流通を促進することが大切。TPAC認証は、植物工場野菜の安全性や付加価値を消費者に一目で伝え、事業者取引の証明になるものとしてすすめていきたい」と話している。

◆書道・交通安全ポスターコンクール表彰式開く◆ JA共済連(安田舜一郎経営管理委員会会長)は三日、東京・平河町のJA共済ビルで平成二三年度JA共済全国小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール表彰式を開いた。

今年度で五五回目となる書道コンクールには一四〇万九〇一五五、四〇回を迎えた交通安全ポスターコンクールには一五万九九九二点の応募があった。これらの応募作品から、県毎に選ばれた優秀作品(書道八〇七点、交通安全ポスター三四点)が、昨年一月に実施された全国コンクール審査会で審査され、書道二六六六、交通安全ポスター一三五五の入賞作品が選出され、この入賞のうち最優秀賞の「大賞」にあたる内閣府特命担当大臣賞、農林水産大臣賞、警察庁長官賞、文部科学大臣奨励賞(書道一六六、交通安全ポスター一二二)を受賞した二八名を表彰した(選賞結果は既報)。

表彰式で安田会長は「JA共済連は、小・中学生の皆様を助け合いと思いやりの気持を伝えていくとともに書写教育に貢献することを旨し書道コンクールを、交通安全の大切さを幅広く社会に呼びかける点から交通安全ポスターコンクールを実施している。本年は東日本大震災により、小学生・中学生から応募していただけないのではないかと危惧していたが、被災地をはじめ全国から例年よりもまして、元気でたくましい、また力強い作品が多数寄せられた。質・量ともにわが国屈指のコンクールとして各界から高く評価されている。今後とも、皆様のご理解、ご支援によって当コンクールをさらに発展させていきたい」と述べた。